

ふじみ野市部活動地域連携の取組と方向性

「地域協働学校」の視点で築く、持続可能なスポーツ・文化芸術活動

ふじみ野市教育委員会



国の動向 部活動改革は「実行期間」へ

現在（地域連携の実証事業）

休日の地域展開を原則とする期間

～令和7年度

前期
(R8-R10)

中間評価

後期
(R11-R13)

改革推進期間

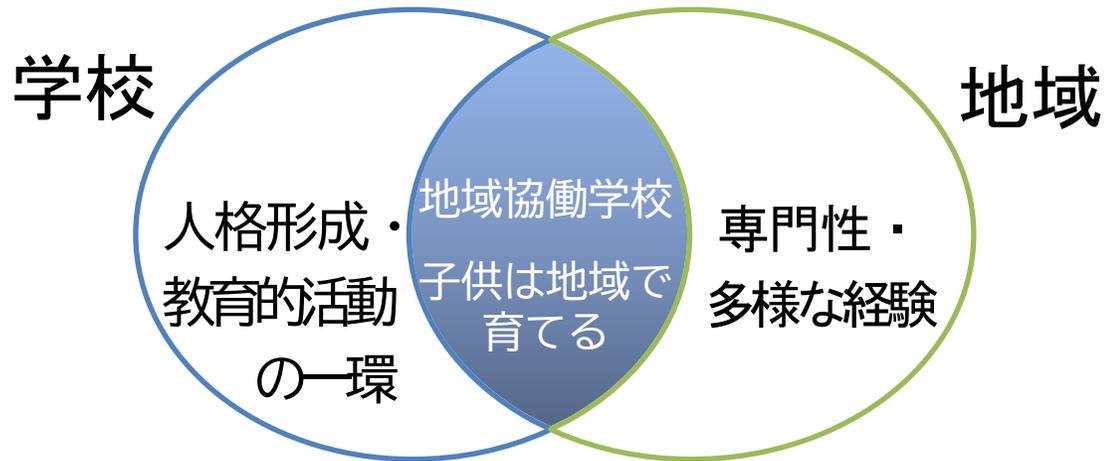
改革実行期間

【背景】 急速な少子化と持続可能で多様な環境の確保

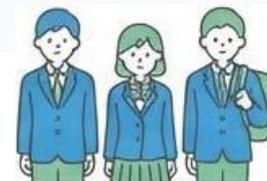
ふじみ野市の方針

休日の活動の一部を地域と連携

月に1回を基本とする
生徒の費用負担なし



区分	平日の活動	休日の活動（一部）
実施主体	学校（部活動）	地域連携（拠点場所方式）
指導者	顧問、地域指導協力者	地域指導者、（顧問）
活動場所	各中学校	指定した学校・市公共施設
顧問の監督・引率	必要	不要（コーディネーターが対応）



基本理念

部活動は生徒の協力や責任感を育む重要な教育活動
完全な外部化（地域多行）ではなく、学校教育をベース
に地域と連携

目指す姿

学校と地域がパートナーとして融合し、生垣こわたり
スポーツ・文化芸術に親しめる持続可能な土壌づくり

令和7年度までの取組（スポーツ）

- ✓ 運動部5種目を対象に拠点校方式の合同活動を実施
- ✓ 軟式野球、サッカー、陸上、剣道、男女バスケットボール
- ✓ コーディネーター（ふじみ野ふあいぐるクラブ）が運営を調整
- ✓ 元プロ選手や市協会所属の専門指導者を派遣



種目	拠点校（主な会場）	指導者
陸上競技	大井中・花の木中	地域指導協力者
サッカー	市フットサルコート	市サッカー協会等
軟式野球	大井中	星野おさむ（元プロ野球選手）
剣道	福岡中	市剣道連盟
バスケットボール	大井西中・葦原中 他	市バスケットボール協会

令和7年度までの取組（文化）

文化芸術活動地域支援事業

- ✓ 市音楽家協会や文化協会と連携し、吹奏楽、合唱、美術に加え、令和7年度より自然科学と将棋を新規追加
- ✓ 各校の要望に応じ、地域指導者が学校へ訪問、または市の文化施設を利用した専門的指導を展開

実施方式：スキルアップ型支援、
地域団体と一緒に活動
地域イベントにも参加

- ・ 吹奏楽部
- ・ 美術部
- ・ 音楽部
- ・ 自然科学部
- ・ 将棋部



連携パートナー：ふじみ野市文化協会、音楽家協会、文京学院大学

これまでの成果

- ・ 専門性の高い指導によする技術力の向上
- ・ 地域と学校のつながりが深まった
- ・ 他校生徒との交流機会が増え、生徒が活動を楽しみにしている様子が見られた
- ・ 地域連携に向け、各校で率直な意見交換が行われ、課題が可視化された
- ・ 市施設活用により、種目によっては会場校の負担軽減が図られた



※令和7年度4月～12月実績

向上

生徒の専門技術・意欲

深化

地域と学校のつながり

これまでの課題

現場の負担軽減の実態

引率不要であっても、集合時の見送りや用具運搬、事務作業が顧問に残っている現状を解消する必要がある

練習内容・指導の質のばらつき

練習内容や指導体制に差があり、生徒の成長実感につながりにくい場面がある

指導体制と人数配置

指導者数と生徒数のバランスにより、待ち時間が長くなる活動が見られる

運営体制の持続可能性

コーディネーターの負担増への対応、会場校の負担偏在の是正、将来的な財源確保と受益者負担の検討が必要

移動・用具運搬に伴う安全面の懸念

大型用具の運搬や移動手段において、安全確保が十分でない実態がある

出欠管理・情報共有体制の不明確さ

種目によっては出欠確認や情報共有の仕組みが分かりにくく、責任主体が曖昧となっている

今後の展望 令和8年に向けて

ワークショップの開催

校長会・顧問が一堂に会し
ふじみ野市の部活動の
「最適解」を熟議する



令和8年度
改革実行期間



ルール作り

学校、子供たちの声を取り入れ、生涯スポーツ
・文化芸術活動を整理

現在の取組をさらに拡大
すべての部活動が地域との
関わりを



子供は社会全体で育てる

この理念のもと、学校と地域が相乗効果を発揮し、生涯にわたり
スポーツ・文化に親しむ人材の育成を目指します

地域協働学校の視点で、子供たちの豊かな成長を
共に支えていきましょう